

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

**2 建学後
(再)**

平成 30 年度 2 級建築施工管理技術検定試験（後期）

学科試験問題（再試験）

平成 31 年 2 月 24 日(日)

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 19 ページです。
2. 試験時間は、**10 時 15 分から 12 時 45 分**です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - イ. [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから 9 問題を選択し、解答してください。
 - ロ. [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
 - ハ. [No. 18]～[No. 32]までの 15 問題のうちから 12 問題を選択し、解答してください。
 - ニ. [No. 33]～[No. 42]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - ホ. [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから 6 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 解答は、別の解答用紙に、〔HB〕の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
それ以外のボールペン・サインペン・色鉛筆などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は、**四肢択一式**です。正解と思う肢の番号を次の例に従って塗りつぶしてください。
それ以外の場合は、採点されないことがあります。

マーク例 ● 塗りつぶし

7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きをしたり、よごしたり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、学科試験の試験終了時まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席する場合には、持ち帰りできません。

※ 問題番号〔No. 1〕～〔No. 14〕までの14問題のうちから9問題を選択し、解答してください。

〔No. 1〕 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 自然換気方式には、屋外の風圧力を利用する方法と室内外の温度差を利用する方法、さらにそれらを組み合わせた方法がある。
2. 全般換気とは、室内全体の空気を外気によって希釈しながら入れ替える換気方式のことである。
3. 冷暖房を行う部屋では、換気設備に全熱交換器を用いると、換気による熱損失又は熱取得を軽減できる。
4. 第3種機械換気方式は、室内を正圧に保つことができる換気方式のことである。

〔No. 2〕 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 照度は、光源の明るさを表す量である。
2. 人工光源は、色温度が低くなるほど赤みがかった光色となる。
3. 天窓採光は、側窓採光に比べて採光量が多い。
4. 演色性は、物の色の見え方に影響を与える光源の性質をいう。

〔No. 3〕 吸音及び遮音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. グラスウールなどの多孔質材料は、主に高音域の音を吸音する。
2. 有孔板と剛壁の間に空気層があるとき、主に中音域の音を吸音する。
3. 遮音とは、壁などに入射する音を吸収又は透過させて反射させないようにすることをいう。
4. 遮音による騒音防止の効果を上げるには、壁や窓などの透過損失の値を高めるようにする。

〔No. 4〕 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 柱に腰壁やたれ壁が取り付くと、一般に曲げ強度が大きくなり、地震時に粘り強い構造になる。
2. 大梁は、せん断破壊よりも曲げ降伏が先行するように設計する。
3. ラーメン構造の梁に長期荷重が作用する場合には、一般に梁中央部の下側に引張力が生じる。
4. 耐震壁は、建築物の重心と剛心をできるだけ近づけるように配置する。

〔No. 5〕 鉄骨構造の一般的な特徴に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 骨組の部材は、強度が高いため、小さな断面の部材で大きな荷重に耐えることができる。
2. 骨組の部材は、耐食性に乏しいため、錆が発生しやすい。
3. 骨組の部材は、工場で加工し、現場で組み立てるため、工期を短縮しやすい。
4. 骨組は、鉄筋コンクリート構造に比べ剛性が高いため、地震や風の影響で変形しにくい。

〔No. 6〕 鉄骨構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 柱の形式には、形鋼などの単一材を用いた柱のほか、溶接組立箱形断面柱などの組立柱がある。
2. 梁の形式には、形鋼などの単一材を用いた梁のほか、トラス梁やラチス梁などの組立梁がある。
3. スプライスプレートは、梁のウェブの座屈防止のために設ける補強材である。
4. ダイアフラムは、梁から柱へ応力を伝達するため、仕口部に設ける補強材である。

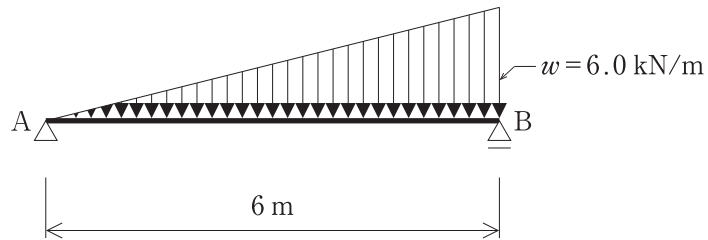
〔No. 7〕 杭基礎に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. SC 杭（外殻鋼管付きコンクリート杭）は、一般に継杭の上杭として、PHC 杭（遠心力高強度プレストレストコンクリート杭）と組み合わせて用いられる。
2. 場所打ちコンクリート杭工法には、アースオーガーを使用するプレボーリング拡大根固め工法がある。
3. 既製杭工法には、鋼管の先端を加工した鋼管杭本体を回転させて地盤に埋設させる回転貫入工法がある。
4. 節付き遠心力高強度プレストレストコンクリート杭は、杭本体部に外径が軸径よりも大きい節部を多数設けたもので、主に摩擦杭として用いられる。

〔No. 8〕 建築物の構造設計における荷重及び外力に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 地震力は、建築物の固定荷重又は積載荷重を減ずると小さくなる。
2. 固定荷重は、建築物各部自体の体積にその部分の材料の単位体積質量及び重力加速度を乗じて計算する。
3. 積雪荷重は、屋根面における積雪量が不均等となるおそれのある場合は、その影響を考慮して計算する。
4. 風圧力は、地震力と同時に作用するものとして計算する。

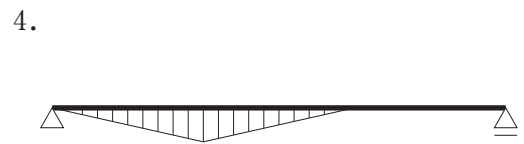
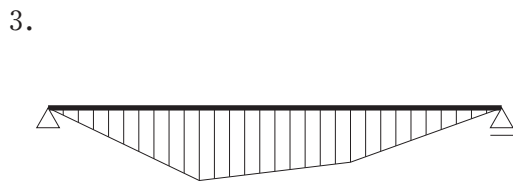
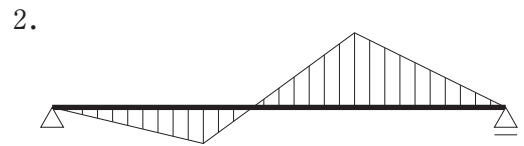
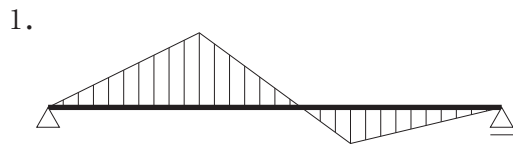
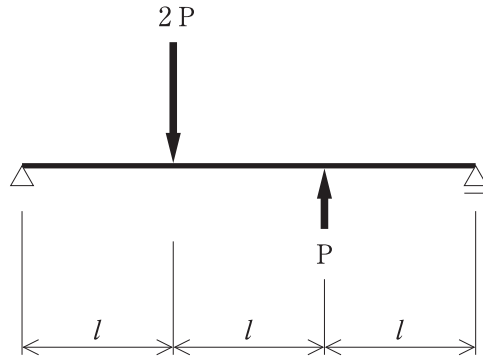
[No. 9] 図に示す単純梁に等変分布荷重 w が作用するとき、支点 A の垂直反力 V_A 及び支点 B の垂直反力 V_B の値の大きさの組合せとして、正しいものはどれか。



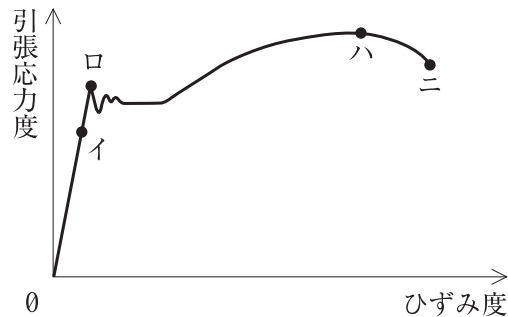
1. $V_A = 6.0 \text{ kN}$, $V_B = 12.0 \text{ kN}$
2. $V_A = 9.0 \text{ kN}$, $V_B = 9.0 \text{ kN}$
3. $V_A = 12.0 \text{ kN}$, $V_B = 6.0 \text{ kN}$
4. $V_A = 12.0 \text{ kN}$, $V_B = 24.0 \text{ kN}$

[No. 10] 図に示す単純梁に集中荷重 $2P$ 及び P が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

ただし、曲げモーメントは材の引張側に描くものとする。



〔No. 11〕 軟鋼の引張応力度とひずみ度の関係を表す図において、イ～ニの各点の説明として、最も不適当なものはどれか。



1. イは、比例限度である。
2. ロは、上降伏点である。
3. ハは、弾性限度である。
4. ニは、破断点である。

〔No. 12〕 木材の一般的な性質に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木材の辺材部分は、一般に心材部分より含水率が高い。
2. 気乾状態は、木材の水分が完全に無くなった状態である。
3. 木材の強度は、繊維飽和点以上では、含水率が変化してもほぼ一定である。
4. 木材の曲り、ねじれ及び反りは、一般に広葉樹の方が針葉樹に比べ大きい。

〔No. 13〕 日本工業規格（JIS）に規定する建具の性能試験における性能項目に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 遮熱性とは、日射熱を遮る程度をいう。
2. 防火性とは、火災時の延焼防止の程度をいう。
3. 水密性とは、風雨による建具室内側への水の浸入を防ぐ程度をいう。
4. 形状安定性とは、地震によって生じる面内変形に追従し得る程度をいう。

〔No. 14〕 防水材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 合成高分子系ルーフィングシートは、下地に張り付けてシート防水層を形成するために用いられる。
2. ステンレスシート又はチタンシートは、連続溶接してステンレスシート防水層を形成するために用いられる。
3. 防水剤を混入したモルタルは、下地に塗布して塗膜防水層を形成するために用いられる。
4. 砂付ストレッチルーフィングは、アスファルト防水層を形成するために用いられる。

※ 問題番号〔No. 15〕～〔No. 17〕までの3問題は、全問題を解答してください。

〔No. 15〕 測量に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. トラバース測量は、測量に必要な測点を配置し、その測点間の角度と距離を測定して各測点の位置を求める測量である。
2. 水準測量は、既知の基準点から各地点の高低差を求めることにより、その地点の標高を求める測量である。
3. 距離測量は、巻尺や光波測距儀などを用いて2点間の距離を求める測量である。
4. 平板測量は、セオドライトを用いて基準方向から目標点までの水平角や鉛直角を求める測量である。

〔No. 16〕 防災設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 自動火災報知設備は、火災発生時に煙又は熱を感知し、自動的にベルが鳴ることで人々に知らせる設備である。
2. 非常用の照明装置は、火災時等に停電した場合に自動的に点灯し、避難上必要な床面照度を確保する装置である。
3. 避難経路に設ける通路誘導灯は、避難の方向の明示を主な目的とする設備である。
4. 劇場の客席に設ける避難口誘導灯は、避難上必要な床面照度の確保を主な目的とする設備である。

〔No. 17〕 空気調和設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 単一ダクト方式は、主機械室の空気調和機から各室まで、1系統のダクトで冷風又は温風を送る方式である。
2. ファンコイルユニット方式は、各ユニットごとの温度調節はできない。
3. パッケージ方式は、機械室の面積、配管やダクト等のスペースが少なくすむ。
4. 二重ダクト方式は、冷風、温風の2系統のダクトを設置し、混合ユニットで温度を調節して室内に吹き出す方式である。

※ 問題番号〔No. 18〕～〔No. 32〕までの15問題のうちから12問題を選択し、解答してください。

〔No. 18〕 仮設工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の位置を示すための縄張りは、配置図に従ってロープを張り巡らせた。
2. 位置の基準点は、建築物の縦横両方向の通り心を延長し、工事の影響を受けない位置に設けた。
3. 平面の位置を示すため、床面に地墨を打った。
4. 垂直を示すため、壁面に陸墨を打った。

〔No. 19〕 地業工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 砂利を有効に締め固めるため、粒径のそろった砂利を使用した。
2. 砂利の層厚が50 cmであったため、締め固めを2層に分けて行った。
3. 床付け地盤が堅固で良質だったため、地盤上に捨てコンクリートを直接打ち込んだ。
4. 墨出しをしやすいするため、捨てコンクリートを厚さ5 cmに打ち込んで平坦に均した。

〔No. 20〕 鉄筋の継手及び定着に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 定着長さの算出に用いる鉄筋径は、異形鉄筋の呼び名の数値とする。
2. フック付き重ね継手の長さは、フックの折曲げ角度によって異なる場合がある。
3. 一般階の大梁の下端筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、原則として曲げ上げる。
4. 直線重ね継手の長さは、同じ径であっても、鉄筋の種類によって異なる場合がある。

〔No. 21〕 型枠支保工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 上下階のパイプサポートの支柱は、できるだけ平面上の同一位置になるように設置した。
2. 高さが3.6 mのパイプサポートの支柱に設ける水平つなぎは1段とし、高さ2.5 mの位置で2方向に設置した。
3. 鋼管枠を支柱として用いるため、荷重は枠組の横架材ではなく、直接鋼管枠の脚柱部で受けた。
4. 階高が高い部分のパイプサポートの支柱は、3本継ぎとならないように枠組足場で構台を組み、その上に設置した。

〔No. 22〕 コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 細骨材率が大きすぎると、流動性の悪いコンクリートとなる。
2. 粗骨材の最大寸法が大きくなると、所定のスランプを得るのに必要な単位水量は増加する。
3. 空気量が多くなりすぎると、圧縮強度の低下や乾燥収縮率の増加をもたらす。
4. 単位水量が多くなると、ブリーディングや打込み後の沈降が大きくなる。

〔No. 23〕 鉄骨の加工に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 曲げ加工される部分の外側の箇所のがきは、ポンチやたがねを用いて行った。
2. 常温加圧で行うひずみの矯正は、プレスやローラーを用いて行った。
3. 柱梁接合部のエンドタブの取付けは、裏当て金に組立溶接とした。
4. 鉄骨鉄筋コンクリート造の柱の十字形鉄骨に設ける梁主筋の貫通孔は、フランジを避けた。

〔No. 24〕 在来軸組構法における木工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 和小屋組の棟木や母屋には、垂木を取り付けるため、垂木当たり欠きを行った。
2. 洋式小屋組における真束と棟木の取合いは、棟木が真束より小さかったため、長ほぞ差し割くさび締めとした。
3. 構造耐力上主要な部分である柱、筋かい及び土台のうち、地面から1 m 以内の部分には、防腐防蟻処理を施した。
4. 筋かいにより引張力が生じる柱の脚部近くの土台には、柱心より150 mm の位置にアンカーボルトを設置した。

〔No. 25〕 シーリング工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 目地底にシーリング材を接着させないため、ボンドブレイカーを用いた。
2. 裏面に接着剤が付いているバックアップ材は、目地幅より大きい幅のものとした。
3. シーリング材の目地への打始めは、目地の交差部あるいはコーナー部からとした。
4. マスキングテープは、シーリング材のへら仕上げ終了後、直ちに取除いた。

〔No. 26〕 壁タイル後張り工法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. セメントモルタルによる改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、タイル工1人当たり 1.8 m^2 とした。
2. セメントモルタルによる改良積上げ張りにおいて、小口タイルの張付けは、1日の張付け高さを 1.5 m とした。
3. 内装用有機系接着剤による内装壁タイル張りにおいて、接着剤はタイル裏面に塗布した後、所定のくし目ごてを用いてくし目を立てた。
4. セメントモルタルによる密着張りにおいて、振動工具は、タイル面に垂直に当て、張付けモルタルがタイル周辺からはみ出すまで振動を与えた。

〔No. 27〕 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スタッドを建て込む高さが 4.0 m のため、65形のスタッドを取り付けた。
2. スタッドは、上部ランナーの上端とスタッド天端のすき間が 10 mm 以下となるように取り付けた。
3. スタッドを建て込む前に、スタッドの所定の位置にスペーサーを取り付けた。
4. 出入口枠取付け用のアンカーは、スタッドに溶接して取り付けた。

〔No. 28〕 セルフレベリング材塗りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. せっこう系の材料は、耐水性に劣るため、常時水がかかる場所での使用は避けた。
2. 吸水調整材は、下地との接着性をよくし、表面の気泡跡を防止するため、コンクリート下地に入念に塗布した。
3. 流込みに際して、平坦性と平滑性を高めるため、柄の長いトンボでならした。
4. 流込み終了後、表面硬化を促進するため、窓を開けて風通しをよくした。

〔No. 29〕 ガラス工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 低層建築物の外部に面するサッシのガラス工事において、ポリエチレンフォームをバックアップ材として用いた。
2. 外部に面するサッシに網入板ガラスを用いたので、ガラスの下辺小口及び縦小口の下端から $\frac{1}{4}$ の高さまで防錆処置をした。
3. 外部に面するガラスに用いるグレイジングチャンネルの継目の位置は、ガラスの下辺中央部とした。
4. アルミニウム製建具のガラスの留付けには、2成分形低モジュラス形シリコン系シーリング材を用いた。

〔No. 30〕 塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木部のクリヤラッカー塗りの下塗りは、ジंकリッチプライマーを用いた。
2. オイルステイン塗りの色濃度の調整は、シンナーによって行った。
3. 上塗りに用いる塗料が少量だったため、同一製造所の塗料を用いて現場調色とした。
4. 不透明塗装の塗装回数を明らかにするため、中塗りは上塗りと色を変えて塗装した。

〔No. 31〕 ビニル床シート張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 柄模様のシートは、接合部の柄合せのため、30 mm 重ねて重ね切りとした。
2. 出隅部のビニル幅木の張付けは、切り合わせ突付けとした。
3. 施工時の室温が5℃以下になるおそれがあったので、採暖のうえシートを張り付けた。
4. 湿気のおそれのある下地への張付けには、ウレタン樹脂系接着剤を使用した。

〔No. 32〕 ALC パネル工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 間仕切壁の施工において、出入口などの開口部回りには、パネルを支持するための開口補強鋼材を取り付ける。
2. 間仕切壁の縦壁フットプレート構法において、パネルの上部は間仕切チャンネルへのかかり代を確保して取り付ける。
3. 外壁の縦壁ロックンク構法において、パネル間の縦目地に用いるシーリングは、3面接着とする。
4. 外壁パネルに設ける設備配管用貫通孔の径は、パネル幅の $\frac{1}{6}$ を超えないものとする。

※ 問題番号〔No. 33〕～〔No. 42〕までの10問題は、全問題を解答してください。

〔No. 33〕 施工計画と事前調査の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 総合仮設計画 ————— 敷地周辺の電柱や架空電線の現状の調査
2. 場所打ちコンクリート杭工事計画 —— 敷地の形状及び工事用水の供給施設の調査
3. 根切り工事計画 ————— 敷地内の地中埋設物の有無の調査
4. 鉄骨建方計画 ————— 日影による近隣への影響の調査

〔No. 34〕 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 仮囲いは、工事現場の周辺の状況が危害防止上支障がない場合であっても、設ける必要がある。
2. 仮囲いには、工事に対する近隣住民の理解を得るため、透明なのぞき窓や工事予定表を設置する。
3. 仮囲いには、合板パネルなどの木製材料を使用することができる。
4. 仮設ゲートは、管理をやすくするため、人や車両の入退場の位置を限定する。

〔No. 35〕 工事現場における材料の保管に関する記述として、最も適当なものはどれか。

1. 袋詰めセメントは、屋内の風通しのよい場所に保管する。
2. ロール状に巻かれた壁紙は、横置きにして保管する。
3. アルミニウム製建具は、床に角材を敷き、平積みにして保管する。
4. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に立てて保管する。

〔No. 36〕 総合工程表の立案段階で考慮すべき事項として、最も必要性の少ないものはどれか。

1. 近隣協定に基づく作業可能日と作業開始時刻及び作業終了時刻
2. 使用可能な前面道路の幅員及び交通規制の状況
3. 地域による労務、資材、機材等の調達状況
4. 各専門工事の検査項目と重点管理事項

〔No. 37〕 バーチャート工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事出来高の累積値を表現しているため、工事進捗度合が把握しやすい工程表である。
2. 先行作業の遅れが後続作業の工程にいかに関与するかが、不明確になりがちな工程表である。
3. 複雑な時間計算が不要であるため、手作業で作成することができる工程表である。
4. 縦軸に記載する作業を職種や工種ごとにまとめて配置すると、関連する作業が把握しやすくなる工程表である。

〔No. 38〕 品質管理のための検査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 抜取検査は、ある程度の不良品の混入が許される場合に適用される。
2. 抜取検査は、品物がロットとしての検査ができない場合に適用される。
3. 全数検査は、検査費用に比べて得られる効果が大きい場合に適用される。
4. 全数検査は、不良品を見逃すと、後工程に重大な影響を与える場合に適用される。

〔No. 39〕 型枠工事における品質管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 合板せき板材料の搬入時に、合板の日本農林規格に適合するものであることを確認した。
2. せき板間隔を保持するためのスペーサの長さを確認した。
3. 壁型枠に設けられる建具用開口部の位置や寸法を確認した。
4. 床型枠に設けた天井埋込みインサートと、壁や梁型枠との離れ寸法を確認した。

〔No. 40〕 鉄骨工事における溶接部の欠陥を表す用語として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アンダカット
2. オーバラップ
3. パス
4. ブローホール

〔No. 41〕 施工管理に関する活動用語とその説明の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. OJT（オンザジョブトレーニング） —— 作業着手前に安全事項や作業手順を確認する活動
2. QC（クオリティコントロール）サークル —— 品質管理活動を自主的に行う小グループ
3. ZD（ゼロデフェクト）運動 —— 従業員の努力と工夫により、仕事の欠陥をゼロにする運動
4. KY（危険予知）活動 —— 作業の危険を事前に予測して対策を立てる活動

〔No. 42〕 統括安全衛生責任者を選任すべき特定元方事業者が、労働災害を防止するために行わなければならない事項として、「労働安全衛生法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. クレーン等の運転の合図を統一的に定めること。
2. 安全衛生責任者を選任すること。
3. 作業場所を巡視すること。
4. 協議組織の設置及び運営を行うこと。

※ 問題番号〔No. 43〕～〔No. 50〕までの8問題のうちから6問題を選択し、解答してください。

〔No. 43〕用語の定義に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築物の基礎は、主要構造部ではない。
2. 住宅の洗面所は、居室ではない。
3. 工場の用途に供する建築物は、特殊建築物ではない。
4. 駅のプラットホームの上家は、建築物ではない。

〔No. 44〕次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 階段の幅が3mを超える場合、原則として、中間に手すりを設けなければならない。
2. 居室の天井の高さは、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分がある場合は、最も低いところの高さとしなければならない。
3. 建築物の敷地には、下水管、下水溝又はためますその他これらに類する施設をしなければならない。
4. 共同住宅の各戸の界壁は、小屋裏又は天井裏に達するものとするほか、遮音性能に関して政令で定める技術的基準に適合するものとしなければならない。

〔No. 45〕建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設業を営もうとする者は、すべて、建設業の許可を受けなければならない。
2. 下請負人として建設業を営もうとする者が建設業の許可を受ける場合、一般建設業の許可を受ければよい。
3. 建設業の許可は、所定の期間ごとに更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力が失われる。
4. 建設業者は、許可を受けた建設業に係る建設工事を請け負う場合、附帯する他の建設業に係る建設工事を請け負うことができる。

〔No. 46〕 建設工事の請負契約に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 請負契約においては、天災その他不可抗力による工期の変更又は損害の負担及びその額の算定方法に関する定めを書面に記載しなければならない。
2. 請負契約においては、注文者が工事の全部又は一部の完成を確認するための検査の時期及び方法並びに引渡しの時期を書面に記載しなければならない。
3. 建設業者は、建設工事の注文者から請求があったときは、請負契約が成立するまでの間に、建設工事の見積書を交付しなければならない。
4. 共同住宅の新築工事を請け負った建設業者は、あらかじめ発注者の書面による承諾を得たときは、その工事を一括して他人に請け負わせることができる。

〔No. 47〕 労働契約の締結に際し、「労働基準法」上、使用者が定め、労働者に**書面で交付しなければならない労働条件**はどれか。

1. 労働契約の期間に関する事項
2. 災害補償及び業務外の傷病扶助に関する事項
3. 安全及び衛生に関する事項
4. 表彰及び制裁に関する事項

〔No. 48〕 建設現場における次の業務のうち、「労働安全衛生法」上、都道府県労働局長の登録を受けた者が行う技能講習を修了した者でなければ**就かせてはならない業務**はどれか。

ただし、道路上を走行させる運転を除くものとする。

1. 建設用リフトの運転の業務
2. 作業床の高さが10 mの高所作業車の運転の業務
3. ゴンドラの操作の業務
4. つり上げ荷重が1 t未満の移動式クレーンの運転の業務

[No. 49] 廃棄物に関する記述として、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」上、誤っているものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工事に伴って生じた汚泥は、産業廃棄物である。
2. 建築物の除去に伴って生じた木くずは、産業廃棄物である。
3. 工事現場の作業員詰所から排出された新聞や雑誌は、一般廃棄物である。
4. 建築物の新築に伴って生じた紙くずは、一般廃棄物である。

[No. 50] 次の資格者のうち、「消防法」上、定められていないものはどれか。

1. 防火管理者
2. 防火対象物点検資格者
3. 特定高圧ガス取扱主任者
4. 危険物取扱者